

決算説明会 平成25年3月期第2四半期決算 (2012年11月2日)

○日本航空株式会社 2013年3月期 第2四半期決算説明会 (PDF 1.45 MB)

http://www.jal.com/ja/investor/event/results_briefing/pdf/fy2012q2_jal102a.pdf

○**NEW!**平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結) (322KB) 2012年11月02日

<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1014210>

○日平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結) (394KB) 2012年09月19

http://www.jal.com/ja/investor/library/information/pdf/fy2012q1_jal102.pdf

○過去の決算短信へ

<http://www.jal.com/ja/investor/library/information/earning.html>

JAL グループ 平成 25 年 3 月期 第 2 四半期連結業績の概況

http://press.jal.co.jp/ja/bw_uploads/MjAxMjExMDJfSkd0MTIxNDFFSkFMg0+Di4Fbg3aVvZCsmjWUTjOMjo6r6keYy.jmyUvIr6mEGMi4vGkNGCzIpUi7UucGRm.pdf

()

○毎日新聞 日本航空：9月中間決算 営業益最高1121億円 毎日新聞 2012年11月02日

日本航空が2日発表した12年9月中間連結決算は、円高を背景に国際線が好調だったことなどから、本業のもうけを示す営業利益が前年同期比5.7%増の1121億円と中間期としては過去最高を確保した。また13年3月期予想については、日中関係の悪化による中国線の旅客減などを見込み、売上高を当初予想より50億円引き下げたものの、コスト削減をいっそう進めるとして営業利益は150億円引き上げ1650億円に上方修正した。

東日本大震災の影響で去年は大きく落ち込んだ需要が国際線・国内線ともに回復。特に欧米や東南アジア向けの旅行需要が旺盛で、国際線の旅客数は同17.7%増に上った。中国線は国際線事業全体の収入に占める割合が通常1割程度に過ぎないため、中間期の影響は軽微にとどまった。一昨年の会社更生法適用に伴う減価償却費の削減などで230億円程度の利益押し上げ効果も働き、最終(当期)利益も過去最高を更新した。

13年3月期については、中国線の旅客減で最大100億円規模の減収を予想するが、採用抑制による人件費の削減や、部門ごとにコストと利益を明確にする「部門別採算制度」の徹底でさらにコスト削減を図る計画。記者会見した植木義晴社長は「収益の最大化と費用の最小化に努め、筋肉質な経営を維持したい」と強調した。

ライバルの全日本空輸は先月末、13年3月期の連結業績見通しについて、中国線の旅客減などから、売上高を当初予想より300億円引き下げて下方修正し、利益予想は据え置いた。全日空の中国線は国際線事業収入の約4分の1に上り、業績に与える影響は日航に比べて大きい。利益予想を上方修正した日航との格差は一段と広がった形で、両社の最終利益予想は1000億円の開きが生じた。「公的支援を受けた日航と同じ土俵で戦うのは不公平だ」と訴えてきた全日空の不満がいっそう高まりそうだ。